

No.	地域	国	市町村	概況	提携希望先	希望交流内容
1	北中米	米国	ワイオミング州ララミー市	人口:30,816人（2010年国勢調査） ワイオミング州のオールバニ郡の郡庁所在地で、州南東部のララミー川のほとり、州間高速道路80号線と国道287号線が交差する場所に位置している。最寄りの空港はララミー・リージョナル空港。 ララミーの開拓は、19世紀半ば、ララミー川を横断するユニオンパシフィック鉄道の建設とともに進んだ。現在でも、同鉄道の重要な分岐点となっている。 州都であるシャイアンから西に66km、コロラド州デンバーから北に182km。西のスノーウィー山脈、東のララミー山脈に挟まれた高原で、市の標高は海拔2,184mである。標高が高いため、冬が長く、夏は短く比較的涼しい気候である。 スノーウィー山脈とララミー山脈に囲まれたララミー渓谷では、ハイキング、サイクリング、ロッククライミング、自然観察、ピクニック、キャンプ、スキー、スノーボード、クロスカントリースキー、スノーシュー、そり、スノーモービルなど、様々な屋外活動を楽しむことができ、アウトドアファンを惹きつけている。 教育においては、ワイオミング大学のメインキャンパスがララミー市内にあり、約13,400人の学生がいる。その他、ララミー・カウンティ・コミュニティ・カレッジ分校、ワイオミング工科大学が市内に立地する。ワイオミング大学及びワイオミング工科大学は、風力発電特別プログラムを有することが特徴である。 産業においては、ワイオミング州は、陸上でクラス6、7の風力地域が全米1位にランク付けされており、これは風力発電における最大の地域資源である。今後、風力発電施設の建設、運営、税金により収益をあげることが期待される。 また、ワイオミング州は石油生産量で国内7位（2007年）、天然ガスは総生産量で国内3位、市場流通量で国内2位（2006年）である。州内には主要な石油・ガス盆地が7つあり、ララミー盆地はそのひとつである。	以下の特徴を持つ自治体を希望 1.大学があること（優先事項） 2.人口規模が同じであること（最大15万人） 3.自然豊かで美しい環境であること（地形や景観の種類は不問） 4.農業又はエネルギー産業が主産業であること	芸術・文化交流、経済交流、教育交流、健康増進や治安維持に関する交流、両市間の協力交流、科学技術交流、青少年交流 1.大学や高校との教育交流 2.幹部交流 3.芸術・文化交流 4.経済交流（企業間のインターンシップ交流） 5.スポーツ交流
2	北中米	米国	オハイオ州メアリーズヴィル市	人口:22,094人 オハイオ州ユニオン郡の首都であり、州都のコロンバス市からおおよそ48キロ北西に位置しており、ワシントンDCから車で727キロ、飛行機で1時間の距離にある急速に発展している治安の良い郊外都市である。 メアリーズヴィル市の産業・経済は、州都のコロンバス市から近いこともあり多岐にわたって強く、オハイオ州で3番目に急速な経済発展を遂げている。 主要産業は製造業、サービス業、農業である。 様々な企業の本社が立地し、ホンダ・オブ・アメリカ・マニュファクチャリング(Honda of America Mfg., Inc.)、ザ・スコッツ・ミラルーグループ・カンパニー(The Scotts Miracle-Gro Co.)、ネスレ・プロダクト・テクノロジー・センター(Nestle PTC)、ヴェヤンス/グッドイヤー(Veyance/Goodyear)、ユニベンチャー(Univenture)などがある。1979年にホンダが米国初のバイク製造工場を設立し、続いて1982年に北米初の自動車工場を設立した。 ホンダは、現在約7,000人を雇用し、400万平方フィートの敷地を保持している。1979年からユニオン郡に40億ドル以上の投資を行っている。 2012年現在、12の日系企業がユニオン郡に本社を設置している。 また、教育においても、優れた教育プログラムに基づき、学校運営を行っている。高等教育においても、オハイオ州立大学、コロンバス州立コミュニティカレッジ、フランクリン大学、アーハイン大学などのレベルの高いカレッジや大学がある。	メアリーズヴィル市と同様に、ホンダ社との関係が強い市との交流を希望している。	芸術・文化交流、経済交流、教育交流、健康増進や治安維持に関する交流、両市間の協力交流、科学技術交流、青少年交流
3	北中米	米国	オハイオ州シドニー市	人口:21,229人 シドニー市はオハイオ州中西部に位置するシェルビー郡の郡都である。鉄道で南北と東西とが結ばれた数少ない都市で、グレート・マイアミ川が市の中心を流れ、600エーカー（約243ヘクタール）以上の公園や風光明媚な場所があるのが大きな特徴である。シドニー市の歴史的中心街は、最近Greatest American Public Placesのひとつに選ばれた。シドニーの街はもともと、斜度3%から40%程度の丘に囲まれた地形で、周辺の豊かな土壌は農業に適している。現在、シェルビー郡には1,100の農場があり、そのほとんどが家族経営によるものである。シドニー市内には50以上の製造業事業者があり、そのうちいくつかの企業はそれぞれの分野において先導的な役割を果たしている。世界最大の空調機用コンプレッサーの製造会社であるEmerson Climate Technologiesはシドニー市に本社を構えている。またシドニー市民楽団によるサマーコンサートや地元合唱団、高校生による演劇の上演なども盛んに行われている。市内には数多くの公立私立の学校があり、シドニー市立学校には、現在、7つの公舎に3,600人が学んでいる。	シドニー市と同規模程度で、農業と産業が組み合わされた都市が理想であるが、全く異なる都市でも構わない。	文化、教育交流、職業交流など
4	北中米	米国	カンザス州オーバーランドパーク市	人口:約173,000人(2008年) オーバーランド・パーク市は、カンザス州の州都カンザス・シティの近郊南西部にあるジョンソン・カウンティ内に位置し、州内で2番目に人口の多い市である。カンザス・シティのベッドタウンとして発展し、その優れた教育・住宅環境から、子供の養育、ビジネス、生活のしやすさ等に関する各種調査で高いランクに位置づけられている。 市内には、Sprint-Nextel（大手携帯電話メーカー）、YRC Worldwide（運輸会社）、Applebee's（レストランチェーン店）の本社がある。 同市は、質の高い公的な初等・中等教育を提供しているほか、カンザス大学エドワードキャンパス等の8つの高等教育機関のキャンパスがある。住民の学歴も高く、市民の56.1%が大学の学位を有している。学校の学習到達度が全米で最も高い地域のひとつである。 同市内にあるジョンソン・カウンティ・コミュニティ・カレッジ（JCCC）は長崎の短大と交流協定を締結しているほか、同カレッジの主権により、日本食、日本の伝統芸能、アニメ・マンガなどを紹介する Greater Kansas City Japan Festivalが毎年開催されている。	同程度の人口規模（15万人～25万人）で、以下の項目に共通の関心を有する日本の自治体との交流を希望している。 1 住民に対する高水準の教育の機会を有すること。 2 市内に本拠地を有する企業があること。 3 日米両国の文化交流を尊重すること。 4 日米両国間の学生及び市民レベルでの交流に関心があること。 5 同市に本社を持つ、特にハイテク及び医療分野での研究機関と連携した経済活動に関心があること。	上記参照

No.	地域	国	市町村	概況	提携希望先	希望交流内容
5	北中米	米国	テキサス州ラレド市	人口:約230,000人 メキシコ国境に位置し、ウェブ郡の郡庁所在地である。全米一の陸上貿易都市で、日に1万台のトレーラーが行きかう都市であり、メキシコのゲートウェイとして知られている。市内には運送会社が515社、トラック会社が210社、ライセンスを持った税関ブローカーが105人いる。また北米大陸でもっとも大きな鉄道会社ユニオンパシフィックレールロードが乗り入れており、23州、シカゴ・シアトル・ニューオーリンズ・ロスアンゼルスなどに直接行くこともできる。 市内にあるテキサスA&M国際大学は、1970年に設立され、1989年に州内9つの大学をはじめとしたテキサスA&Mシステムと呼ばれる高等教育システムに加盟した。学生数は約5,000人と少ないが、マイノリティーの学生に対して積極的に機会を提供していることが認められ、"Greatest Opportunity for Minority Students(少数人種の学生に成功の機会を提供する良い大学)"全米第二位に位置づけられると共に、2006年には最も優れたビジネススクールとして表彰されるなど注目を集めている大学である。日本人学生も少数ではあるが在籍している。	特に無し	経済交流、自治体間交流(連携)、文化交流、学生交流
6	北中米	ドミニカ共和国	モカ市	人口:225,091人 面積:838.62km <sup>2</sup> モカ市はドミニカ共和国の北部に位置する中核都市のひとつです。北では大西洋に接し、国際的なビーチリゾートが点在しています。 肥沃な土壌にも恵まれており農業、畜産業が産業の中心となっており、特にコーヒー、バナナは品質が高く、世界各国に輸出されています。 本市はドミニカ共和国の歴史上、四度にわたり国の首都となり文化的な蓄積があるとともに気候にも恵まれているため観光業も成長しています。毎年開催されるキリスト教にちなんだお祭りやカーニバルには、国内だけでなく世界中から観光客がやってきます。 モカ市は、今後のインフラ整備とあわせて、北部地域の中核的な市の一つとしてさらなる発展が予想されています。 【その他PR】モカ市には3つの大きな魅力があります。 一つは、美しい白砂のビーチ、ドミニカの明るい太陽と温暖な気候などの自然環境です。二つ目は恵まれた自然を生かした緑の多い街並みや独自の文化などまち自体の魅力です。そして三つ目はその町で暮らす陽気で暖かい人々です。 様々な面で日本とは全く異なる環境、文化、習慣の本市ですが、不思議と日本の方々とは相性が良く、本市を訪れた多くの日本の方にモカ市に対して親近感を抱いていただいています。また逆にモカ市にも多くの日本ファンがいます。日本の方々とモカ市の市民は、交流することでお互いにより多くのものを学びあう事ができると信じております。	日本の自治体であれば地域等の希望はありません。	日本の自治体であれば希望条件等はありません。
7	北中米	メキシコ合衆国	グアナフアト州イラプアト市	人口:529,440人(2010年国勢調査)／面積:780.4km <sup>2</sup> イラプアト市は、パヒオ広地域のグアナフアト州、その中央に位置することから、まさに、戦略上の要衝である。1954年までは世界屈指のイチゴの生産量を誇ったことから、「イチゴの世界都市」として、現在でも知名度が高い。多様な産業、インフラ、サービスを提供し、グアナフアト州内において最も競争力のある都市の一つである。さらに、近年の自動車産業や工業地区の発展により成長が著しい。  イラプアト市の姉妹都市: アメリカ合衆国、テキサス州、マッカレン市 アメリカ合衆国、ウィスコンシン州、グリーンベイ市 アメリカ合衆国、カリフォルニア州、チュラ・ビスタ市 キューバ、マリアナオ市 スペイン、ムルシア市  【その他PR】イラプアト市の主要産業はサービス、重工業、金属加工、建設、通信・運輸、カルチャーツーリズムである。同市はメキシコの中央地域において生産される製品取引の中心地であることから、東西南北に出荷を行う集積地である。高速道路は、鉄道や他の交通インフラと連結している。 カストロ・デル・リオ・テクノ工業団地に代表される5つの工業団地では、世界レベルの自動車メーカーが大規模な施設を構えている。	日本の都市	自動車、スポーツ、イチゴ、文化、観光、科学技術、環境、保健分野における交流を希望しています。
8	北中米	メキシコ合衆国	南バハ・カリフォルニア州ロス・カボス	人口:238,487人(2010年国勢調査)／面積:3,451km <sup>2</sup> バハ・カリフォルニア半島はメキシコの北西部に位置する。市の名称「ロス・カボス」は「複数の岬」を意味し、半島の最南端にあるカボ・サン・ルーカスとサン・ホセ・デル・カボと呼ばれる町二つと周辺の村を含む自治体。 美しい自然の多様な景観に見とれる人、回遊してくる鯨たちに遭遇できるホエール・ウォッチング、豊富な魚種を鑑賞できるスキューバ・ダイビング、カジキマグロやカツオなどの豪快なスポーツ・フィッシングを楽しむ人、広大な敷地にゆったりと設計された一流ゴルフコースでのラウンドを満喫する人など、多種多様な目的をもった観光客が多数訪問するメキシコ屈指のリゾート地。 人口の7割近くは観光業などの第三次産業に従事している。交通インフラも整っている。年間を通じて、数百隻の船舶が寄航し、停泊できる港湾施設がある。農業では、トウモロコシや豆、トマトやじゃがいもなど伝統的な作物をはじめ、様々な野菜、果物が栽培されている。2012年6月にはG20の首脳会議の開催地として脚光をあびた。	日本の都市	
9	北中米	メキシコ合衆国	サン・ルイス・ポトシ州ソレダ・デ・グラシアノ・サンチェス	人口:267,839人(2010年国勢調査)／面積:280.95km <sup>2</sup> ソレダ・デ・グラシアノ・サンチェス市はメキシコ中部の平均標高1900メートルの高地に位置する丘の多い自然豊かな町。鉄道網、航空、道路整備が整っており、移動が容易である。生息する植物は乾燥地帯特有の針葉樹、サボテンなど。農作物はとうもろこし、豆などの穀物を中心に、また畜産業も盛んである。 メキシコ料理はユネスコの無形文化遺産に登録されているが、その代表的な料理であるエンチラーダ(Enchilada)のフェスティバルが最初にエンチラーダ・ポトシーナの産まれた町であることから2013年より大々的に行われている。	日本の都市	

No.	地域	国	市町村	概況	提携希望先	希望交流内容
10	北中米	メキシコ合衆国	グアナファト州サラマンカ市	人口:260,732人(2010年国勢調査)／面積:745.96km <sup>2</sup> サラマンカ市は1603年に創設された街で、当時の副王の出身地であるスペインの古都・サラマンカ市に因んで命名されました。 サラマンカ市は、グアナファト州内の他都市(レオン、イラブアト、シラオ、グアナファト、セラヤ)とともに、メキシコ中央高原のバヒオ地域における工業回廊(industrial corridor)を構成しています。また、農業も盛んであり、小麦、とうもろこし等が栽培されています。街中心部にはコロニアル調の建物が立ち並び、植民地時代からの美しい景観が維持されています。 サラマンカ市には、来年2月にマツダの新工場の開所が予定されています。なお、国道からマツダ新工場に至る道路は、同社の本社がある広島に因み、「ヒロシマ通り(Avenida Hiroshima)」と名付けられています。 本年2月には、サラマンカ市郊外にキャンパスがあるグアナファト大学工学部と広島大学工学部との間で提携協定が締結されました。今後、両大学間の人的交流、研究面における交流が更に活発化することが期待されます。	日本の都市(とりわけ広島県内の都市を希望)	サラマンカ市は、2013年及び2014年が日墨交流年の機会に、日墨関係の更なる緊密化に資する姉妹都市関係の構築を希望しています。とりわけ、マツダの新工場建設が予定されていること、また、グアナファト大学工学部と広島大学工学部が提携協定を締結したことから、広島県内の都市との姉妹都市関係の構築を希望しています。
11	北中米	メキシコ合衆国	サン・ルイス・ポトシ州サン・ルイス・ポトシ市	人口:1,040,443人(2010年国勢調査)／面積:385km <sup>2</sup> サン・ルイス・ポトシ市はサン・ルイス・ポトシ州の州都であり、メキシコ中央高原に位置し、首都メキシコ市から363kmの位置にあります。メキシコの中心部に位置する同市には、壮大なバロック様式の建築物と多くの新古典建築様式の建造物があり、独特の折衷的な雰囲気特徴的です。 1592年に創設され、金・銀山町として発展しました。1863年に、フランスの武力干渉を受けた際に、ペニート・ファレス大統領(当時)が臨時政府を同市に置いたことがあります。 また、サン・ルイス・ポトシ市は、メキシコ国内主要3都市(メキシコシティ、モンテレイ市、グアダハラ市)から350マイル以下の距離、また、米国との国境及び国内主要港(マンサニエーゾ港、ラサロ・カルデナス港、アルタミラ港及びベラクルス港)まで500マイル以内の距離にあります。この恵まれた立地を生かし、産業・ロジスティックの要所となっています。また、日系自動車部品企業の進出が相次いでおり、同市の経済発展に寄与しています。	日本の都市	2013年はサン・ルイス・ポトシ市に臨時政府が置かれた1863年から150年が経つ記念すべき年であり、また、2013年及び2014年が日墨交流年に当たることから、日墨関係の更なる緊密化に資する姉妹都市関係の構築を希望しています。 同市は観光地としても有名であり、毎年多くの観光客が同市を訪れています。特に、イースターにおける聖体行列は国内有数の規模を誇ります。イースター期間中には、「光の祭典(Fiesta de Luz)」が開催され、歴史地区の建物に色とりどりの光が投影されます。
12	北中米	メキシコ合衆国	グアナファト州セラヤ市	人口:468,387人(2010年国勢調査)／面積:553km <sup>2</sup> セラヤ市は、メキシコ中央高原に位置し、首都メキシコ市から260kmの位置にあります。 1570年にスペイン人により創設されたセラヤ市は、メキシコ革命(1910年～1920年)においては、1915年に「セラヤの戦い」と呼ばれる、メキシコ革命の天王山となった戦いが行われたことでも有名です。 近年、メキシコには日本の自動車メーカーの進出・生産拠点の移転が加速していますが、2012年にホンダがセラヤ市に新四輪車工場の竣工式を実施。新工場は年間生産能力20万台で、2014年春に稼働開始予定となっています。  セラヤ市の主要産業は、製造業、サービス業、農業(トウモロコシ等)、畜産業(牛、ヤギ)等です。 また「カヘタ(Cajeta)」という牛とヤギの乳を混ぜて作るキャラメル菓子が有名。	日本の都市	ビジネス、投資・貿易、文化、観光、人材育成、教育、科学技術、環境分野等における交流を希望しています。また、セラヤ市としては、姉妹都市交流を通じて、経済データの共有、両都市間におけるイベントの実施、企業間交流、文化交流を通じた相互理解促進、大学・学術機関交流等を希望しています。
13	北中米	メキシコ合衆国	チアパス州タバチュラ市	人口:約233,185人(2011年調査)／面積:303km <sup>2</sup> タバチュラ市は、メキシコ合衆国南部に位置するチアパス州の中でも南端に位置する港湾都市で、グアテマラ共和国との国境に程近い自然豊かな地である。最初の組織的な日本人の中南米移民団である「榎本植民団」が1897年に到着した地でもある。移民団は、愛知県、兵庫県、宮城県、岩手県の出身者により構成され、その後移民団の一部はチアパス州に残り、1905年に日墨協働会社を設立。同社は日系人学校建設や西和辞典編纂等に尽力した。現在、メキシコには多くの日系人が居住しているが、その先駆けとなった地がタバチュラ市である。なお、現在も彼らの子孫の方々が相当数同市に居住している。古くからメキシコと中米の交通の要衝として栄えたタバチュラ市の主要産業は、畜産業(牛)、農業(コーヒー、バナナ、カカオ、マンゴー、さとうきび、大豆等)、観光産業である。また、太平洋岸には、メキシコ主要港の一つであるチアパス港を擁し、貿易港としてのみならず、観光クルーザー等も寄港している。近年は、エコツーリズムにも力を入れ、コーヒー農園、マングローブ林散策等が行われている。	同様な人口規模、地勢等の特徴を共有する ような都市との姉妹都市提携を希望する。	文化、教育、経済、観光、科学技術
14	南米	コロンビア	カリ	人口:約2,300,000人 コロンビアの南西部のアンデス山脈の中腹、標高約1000メートルの場所に位置するバジェ・デ・カウカ県の首都で、国内3番目に人口が多く、経済・産業が集中する都市の一つである。気候は、赤道に近く、標高が高いため、一年中初夏のような気候である。カリは、サルサの音楽・ダンスが有名で「サルサの世界首都」とも呼ばれ、明るく楽しい町として親しまれている。カリには、日本移住者が在住していた地であり、日本人がコロンビアに初めて農業トラクターを持ち込んだこととしても知られている。	-	コロンビアにおける日本からの移住者が居住する町なので、文化的交流を希望する。
15	南米	コロンビア	カルタヘナ	人口:約955,000人 コロンビア北部、カリブ海沿岸に位置するボリーバル県の首府である。国内有数の観光地で、国内外から観光客が訪れ、また国内第2位の荷揚げ港でもある。スペイン植民地時代の建築や町並み、要塞など歴史的建築物が数多く現存することから、1985年にユネスコの世界遺産に登録された。カルタヘナには、広いコンベンションホールやハイレベルのホテルがあり、大きなイベントや講演を開催するのに最適な町である。毎年3月に開催される国際映画祭や11月開催のミス・コロンビアコンテストのように国をあげての重要なイベントの開催地でもある。	-	古い町の遺産を通して文化的交流を希望する。

No.	地域	国	市町村	概況	提携希望先	希望交流内容
16	南米	コロンビア	バランキージャ	人口:約1,860,000人 カリブ海に面した港湾都市で、アトランティコ県の県都である。文化と伝統が豊かな町で、毎年2月には、ユネスコ世界無形遺産に認定された世界的に有名なバランキージャ・カーニバルが開催される。バランキージャ・カーニバルとは、スペイン人による植民地時代にカトリックの行事と先住民の儀式、奴隷であったアフリカ人の音楽が融合し始まったと言われている。ヨーロッパ、アフリカ、先住民3つの文化が融合したもので、コロンビアの豊かで多様な文化を象徴している。今年2013年は、バランキージャの町が設立され200年という記念の年である。それを祝い、様々な文化記念イベントが開催される。 また、バランキージャと日本との繋がりとしては、日本移住者が在住した町でもある。	-	コロンビアにおける日本からの移住者が居住する町なので、文化的交流を希望する。
17	南米	コロンビア	メデジン	人口:約3,750,000人 コロンビア西部のアンティオキア県の県都である。産業と商業の中心地で、流行を発信し、花やデザイン産業が盛んな整備された美しい町である。国内第2の都市で、近年、大きく変化したことを実感しており、今年、都市研究所より「世界で最も革新的な都市」に選ばれた。 メデジンには、コロンビアの最重要企業100社のうち、20社の本社があり、66,900社以上の企業が存在する。また、サービス部門の53%を占める外資系企業145社の投資がある。テキスタイル産業が盛んで、45,000人の直接雇用、135,000人の間接雇用があり、全雇用の30%を占める重要な産業である。流行の発信地であるメデジンは、毎年恒例のコロンビアモードの開催地でもある。コロンビアモードは、重要な企業、海外からの招待企業、才能あるコロンビア人が参加して行われる。毎年8月「永遠に春の町」に相応しくバルコニーやテラス、庭、壁が花であふれ咲き、有名な「フラワーフェスティバル」が10日間盛大に開催される。	-	製造と産業化のための都市計画、イノベーション、協力などの交流を希望する。
18	ヨーロッパ	イタリア	マルケ州フェルモ県ラベドーナ町	人口:1,169人 ラベドーナは、イタリア共和国の中部にあるマルケ州に位置し、面積は14.93km <sup>2</sup> 。町の中心部は、標高263mの小さな丘の上であり、海とシピッリーニ山地からも近い。歴史的な教会や中世からの建築物も残っている。町の周辺には、豊かな自然景観や田園風景が広がる。  町の産業の9割は観光業、靴の製造業が残りの1割を占めている。 観光客はバー、レストラン、ベッド・アンド・ブレイクファスト等を楽しむことができる。	文化・食文化の交流に興味がある人口規模が小さい自治体、歴史的な寺院が残っている町	ウォーキング、水泳、農業、文化、食文化
19	ヨーロッパ	イタリア	トスカーナ州アレッツォ県アンギアーリ	人口:約5,800人 トスカーナ州の東部に位置し、総面積は130.51km <sup>2</sup> 。「イタリアの最も美しい村」に認定されている。また、地方中小都市のスローな生活と環境を尊重する運動である「チッタ・スロー協会」に加盟している。 1440年、アンギアーリにある橋を巡ってフィレンツェ軍とミラノ軍の間で争われた「アンギアーリの戦い」の舞台となったことでも知られる。 街は城壁に囲まれていることから、観光客もあまり多くはなかったが、近年、「アグリツーリズモ」と呼ばれる農業体験民宿が盛んで、観光の中心となっている。 前述「アンギアーリの戦い」をレオナルド・ダ・ヴィンチが描いた絵画が存在したとされているが、現在はピーテル・パウル・ルーベンスによる模写のみが存在している。	古戦場など、歴史のある町・村	
20	ヨーロッパ	フランス	イル・ド・フランス州ピュシー・サン・ジョルジュ町	人口:14,040人 パリ近郊(西側)の平野に位置し、面積は15.28km <sup>2</sup> 。最寄りの空港はシャルルドゴール空港である。 図書館や音楽学校がある。また、マスメディア資料館を建設する予定である。	同規模の自治体との交流を希望。	文化、観光、スポーツ等の交流。
21	ヨーロッパ	フランス	オーヴェルニュ州ケンヤ町	人口:1,477人 農畜産、林業が主な産業でオーヴェルニュ州の州都(クレモン・フェラン)から東へ50Km。町の周囲は森林及び農村地帯。 芸術による町の活性化を図っており、町に美術工芸家が多く住むようになってきている。町役場、中心の広場に作品が常設されている。県による「建物美化事業」が2つの建物で実施されていた。日本の伝統的芸術(木版画等)に関心が高い。	芸術家の交流ができること。	来町した芸術家が製作活動を町内の芸術家と共に、町民との交流を望む。
22	ヨーロッパ	フランス	ロレーヌ州マルリー市	人口:10,139人 フランス北東部、ドイツとの国境沿いに位置するロレーヌ州モーゼル県の県庁所在地メツ(Metz)に隣接する人口およそ1万人の都市(面積10.8km <sup>2</sup> )。パリからTGVで1時間20分、ストラスブールから車で1時間半、ドイツ・ルクセンブルク国境からは車で45分などと、交通の便の良さから国内外の交流が盛んな市である。 マルリー市は、紀元前後のローマ人入植のころに作られた都市に起源を持つが、近年はメツ都市圏として商業が盛んな地域として発展している。良好な交通アクセスに恵まれていることから、現在、市内に6つのビジネスゾーンを設定し、オフィスビルなどのビジネスインフラ整備を行い企業の誘致を行っている。 19世紀に建てられたサン・プリス教会に加え6つの古城が残っているなど文化遺産が多いだけでなく、市内を流れるセイユ川沿いを中心として美しい歴史的な景観や豊かな自然景観が多く保持されている。 また、人とモノの活発な交流に伴う文化的な交流活動も盛んである。マルリー市は、ヴァイサツハ・イム・タール市(ドイツ)とマスキュー市(ロシア)と姉妹都市提携を結び国際的な交流を行っている。また、音楽では定期的にコンサートを開催しているマルリー交響楽団の本拠地であることに加え、マルリー・ジャズ・フェスティバルが毎年開かれている。	-	文化・経済交流を中心とした自治体交流を希望

No.	地域	国	市町村	概況	提携希望先	希望交流内容
23	ヨーロッパ	ポーランド	ルブリン市	人口: 348,450人 ポーランド東南部に位置するルブリン市は、面積が約147.5 km <sup>2</sup> 、国内で9番目に大きな都市である。市内には、4つの大学を含む6つの高等教育機関や複数の私立教育機関があり、90,000人の学生が在籍している。 経済面に関しては、主要産業は自動車関連技術、電力、家具生産及び食品加工である。また、ビジネスに特化したサービス業務を立ち上げるにも理想的な拠点であり、IT及び業務のアウトソーシング関連の投資を行うにも適している。 ルブリン市では、年間を通し、多くの祭り、演奏会及び芸術イベントなどが開催され、主要な文化的中心地でもある。 2016年「欧州文化首都」(European Capital of Culture)の候補として選ばれたこともある。 ルブリン市は東アジアに関心を持っており、中国の2都市と姉妹提携し、最近では東京にも訪問を果たした。若い世代も同様で、市内のマリー・キュリー・スクウォドフスカ大学政治学部には、学生が組織する東アジア同好会があり、様々な企画を行っている。この同好会が2011年1月10～11日に開催した「Japan Day」に、当時の楠本祐一在ポーランド特命全権大使が招待された。	ルブリン市と同規模の都市	教育、文化、経済協力
24	ヨーロッパ	マケドニア 旧ユーゴ スラビア共 和国	カヴァダルチ県	人口: 38,391人 「カヴァダルチ」という地名が歴史的文献に登場したのは1519年、小さな農村だったという記録がある。現在、県は1つの市で構成され、4つの区内に55の町がある。カヴァダルチ県は、南をギリシア共和国に面したマケドニア南部の県で、ヴァルダル地方の大部分を占めている。県の標高は23mから270mと起伏のある地形で、大きな河川と湖に恵まれた自然豊かな美しい風景を誇る。 また、高速道路で他県とつながっており、交通の便も良好である。 主な産業は農業で、人口の約6割はブドウ栽培に従事しており良質なブドウを栽培している。県内にあるティクベシュ園はバルカン広域最大のワイナリーであり、その他30もの民間ワイナリーがある。また、県内にはマケドニア有数のタバコ加工工場もある。 ブドウ栽培や収穫、また音楽に関する祭事が多くある。 県内には幼稚園が5、小学校が6校ある。高等教育では、文系、農業系、技術系の高校がある他、ワイン醸造学とコンピューター科学が学べる専門学校がある。	人口が同規模かそれ以上の自治体	教育、文化、行政、地方自治、観光、科学、美術、環境保全
25	中国	中国	北京市延慶県(えんけいけん)	人口: 273,530 / 面積: 1,992 km <sup>2</sup> 北京市西北部に位置し、北京市内までは約50分。首都北京市の北の玄関口で、避暑リゾート地として有名。 林業資源、鉱物資源、水資源などが豊富で自然保護区が12カ所ある。1999年には国家環境総局より国家級生態模範県に表彰された。 八達嶺万里の長城を有し、年間900万人以上の観光客が訪れる。	同規模の自治体	観光産業、温泉開発、ハイテク産業、農業産業
26	中国	中国	天津市津南区(しんなんく)	人口: 426,000 天津市東南部に位置する市轄区で、市の中心と海岸部を結ぶ重要な通路となっている。天津港へは20km、天津滨海国際空港へは15km、北京までは1時間ほどの距離である。 米、有機野菜、カリン等の都市型農業が盛んである。300を越す外資系企業があり、主な産業は環境保全、インフラ整備関連製品、金属製品、化学、服飾等である。	先進的な農業栽培技術、ハイテク企業及び環境保全産業を持つ自治体	・農業、環境保全産業分野での交流協力 ・資金、技術、専門家導入等の交流
27	中国	中国	天津市武清区(ぶせいぐ)	人口: 830,000 / 面積: 1,570 km <sup>2</sup> 市の中心部から約30kmのところを位置し、北京市からは71kmの距離にある。北京首都国際空港へは90km、天津国際空港へは35km、天津新港へは71kmであり、交通の便が非常に良い。区内も交通網が整備されている。 主な農産物は穀物、果物等であるが、近年は無農薬野菜、酪農の発展に力を入れている。各種産業を育成しているが、特に絨毯・自転車製造業が区を代表する産業である。	同規模で工業が盛んな自治体	経済貿易等の分野での交流協力を通じ、科学技術の発展、文化・教育の振興、医療サービスの向上を図りたい
28	中国	中国	河北省邢台市(けいだいし)	人口: 6,73万人 / 面積: 12,486 km <sup>2</sup> 河北省の南部に位置し、北は石家荘、南は邯鄲に接している。北京まで400km、石家荘国際空港まで150kmの距離がある。 太行山から華北平野にかけての地理は西高東低で、西から東に向かって山地が2割、丘陵が1割、平野が7割という分布となっている。石炭、電力、冶金、紡績、機械、化学工業、建材、医薬及び食品などを中核産業とし、また農業では、小麦、トウモロコシ、棉花、落花生などを豊富に産出する。梨、リンゴ、栗、胡桃、柿などの生産高は中国屈指である。 3500年もの文明の歴史を持つ都市でもあり、過去4度に渡り国を築き、2度都が置かれた。	工業・農業の均衡が取れている総合都市	経済、教育、文化、行政など
29	中国	中国	吉林省集安市(しゅうあんし)	人口: 約23万人 / 面積: 3,217 km <sup>2</sup> 北朝鮮国境沿いの長白山麓に位置する吉林省通化市が所管する県級市。 豊富な歴史的遺産をもつことから、中国歴史文化名城に指定されるとともに、2004年には古代高句麗王国の首都群と古墳群がユネスコの世界文化遺産に指定された。世界遺産に登録されて以降、観光客で賑わいを見せており、市も観光振興に注力している。北朝鮮とは鉄道でつながっており、中国の対北朝鮮貿易地のひとつである。朝鮮人参の製菓業が盛んである。	地域は問わないが同規模の自治体	・経済(特に貿易、農業の技術交流)、文化・高句麗遺跡があることから遺跡つながりの交流
30	中国	中国	黒龍江省綏化市(すいかし)	人口: 約569万人 / 面積: 34,063 km <sup>2</sup> 黒龍江省の中南部に位置し、総面積のうち平原が72%、山地丘陵が19%、河川等が9%を占める。 人口のうち74%が農業に従事しており、とうもろこし、大豆、水稻などの食糧作物や、たばこ、麻などの商品作物を生産する重要な生産基地となっている。市内には文化の名所旧跡が数多く存在し、切り紙、掛銭、皮影、中国画、凧、地方劇の文化が発展し「中国の民芸故郷」とも呼ばれている。	特に問わない	文化や政治・経済、技術等を含め幅広い分野における友好交流

No.	地域	国	市町村	概況	提携希望先	希望交流内容
31	中国	中国	浙江省紹興県(しょうこうけん)	人口:約71万人 紹興県は、経済発展の著しい長江デルタ流域に位置しており、その経済力は中国の県級行政区域のトップ10に入っている。交通・情報インフラも整備されており、中国における「環境に優しいまちづくり」のモデル県に指定されるなど、生活環境は非常に充実している。また、中国政府が最初に指定した24の「歴史文化都市」の1つでもあり、新石器時代半ばに遡る悠久の歴史が創り上げた景観や文化を擁していることから、「壁のない博物館」とも呼ばれている。 県の主な産業は紡績業で、世界最大の紡績製品交易市场である「中国軽紡城」があるため、毎日10万人を超える取引関係者が出入りしている。また、民間企業の活動が活発で、外資企業も含めた県内企業の98%は民間企業である。紹興酒や絹織物の生産は有名であるが、文豪・魯迅の生誕地としても知られ、彼の生家や記念館は観光名所の1つとなっている。	特に問わない	経済(特に製造業)、文化(特に酒、染織関係)、環境、学校教育
32	中国	中国	福建省三明市(さんめいし)	人口:270万人 / 面積:22,900 km <sup>2</sup> 省の北西部に位置する新興工業都市で、沿海経済開放区である。 森林資源は豊富で面積の75.8%を占めており、また鉱物資源と水利資源にも恵まれている。工業、農業は省の中でも重要な基地となっている。	経済、教育、文化等の分野で交流できる都市	事業投資、人材の教育・育成、友好関係発展のための交流
33	中国	中国	江西省吉安市(きつあんし)	人口:約470万人 / 面積:25,271 km <sup>2</sup> 江西省の西南部。秦朝時代に郡が置かれた歴史ある街で、66%が森林に覆われた豊かな自然と、市内を流れる多くの川により豊かな水資源を有する。気候は亜熱帯気候で、年平均気温は18~19℃、年平均降雨量は1,600ミリ。漢民族の住民が大半だが、37の少数民族が居住し人口の0.4%を占めている。 産業においては、第一次産業から第三次産業中心の産業構成にシフトしている。香港や長江下流の経済圏に水路、鉄道、道路で通じており、地域の優位性に貢献している。 市内には武功山、青原山、王筍山、白水仙などの自然名勝に恵まれている。また、廬陵文化は名高く、南宋や北宋の文学家、史学家の記念館等の文化的名所旧跡がある。	特に問わない	観光、経済等での交流協力
34	中国	中国	山東省臨沂市(りんぎし)	人口:1,011万人 / 面積:約1.7万 km <sup>2</sup> 省の南東部に位置し、3区、9県を管轄している。面積は約1.7万km <sup>2</sup> 。青島国際空港へは2時間半の距離。市の東側には青島、嵐山、日照、連雲港という「四大港湾」がある。基幹産業は農業であるが、工業も発達し、機械製造、化学工業、建築材料、食品、陶器、薬品等ほとんどの分野のメーカーが揃っている。また、全国で3番目の規模を誇る卸売市場がある。 また、「孫子兵法」の出生地であり、諸葛亮、荀況、顔真卿など歴史上名高い人物の出身地でもある。	・工業、農業、貿易、教育、文化の分野で相互補完ができる中規模都市 ・当市の管轄区県との交流を希望する小さな都市	工業、農業、貿易、教育及び文化の分野での民間交流の展開
35	中国	中国	山東省濰博市(しほくし)	人口:4,180,000人 省の中部に位置し、区の西側は省都の済南市、東側は青島と接しており風光明媚な街として名高い。済南空港へは80km、青島空港へは210km、青島港へは230kmと交通の便は良い。主な産業は石油化学、電気機械、電子、繊維、陶磁器建材、医薬化工、シルク等である。 春秋戦国時代の「齊」の都が置かれた古都であるため、「古車馬館」、「儂瀧墓」等の歴史文化遺産が数多く残っている。また、「中国陶磁器館」等の文化施設がある。	経済分野で相互補完し、また他分野の交流を展開できる自治体	経済貿易、教育文化、科学技術、スポーツ、衛生、環境保護の分野での研修育成や学生交流
36	中国	中国	山東省新泰市(しんたいし)	人口:1,340,000人 省の中部に位置し、済南国際空港から1時間、青島国際空港から3時間、日照港から1時間のところにある。主な農産物は小麦、トウモロコシ、ピーナツ、栗等。鉱山は石炭の埋蔵量が16億tであるほか、石灰石、花崗岩及び大理石がある。また、歴史・文化で有名な街でもあり、春秋時代に魯国により平陽邑が設置された。	工業、農業が盛んで、交流協力の補完性を持つ自治体	経済、産業、科学技術、文化、社会等の分野での交流
37	中国	中国	河南省駐馬店市(ちゅうばてんし)	人口:8,307,000人 省の中南部に位置し、鄭州新鄭空港へは170km、高速道路で約1時間半の距離。鉄道、国道、高速道路が市の南北を貫き、交通の便は良い。 白ゴマ、椗茸、板栗等が特産品。主な産業は医薬、機械、電子、建材、食品等である。「駐馬店」という名は、各時代に皇室の宿駅が設けられていたことに由来する。唐朝の有名な書道家である顔真卿の石碑の碑文が保存されている。	同規模で相互補完のある交流ができ、中国の他の自治体と友好提携をしていない自治体	平等互恵という原則で、経済貿易、科学技術、教育文化等の分野での交流
38	中国	中国	湖北省天門市(てんもんし)	人口:1,610,000人 湖北省の中部、漢水下流の北岸に位置する。武漢天河空港から市内までは120km、所要時間は約2時間半。「軽紡工業の街、商業貿易の街、文化観光の街」という「3つの戦略」を中心に、「水の庭園」という特色を持つ都市建設を進めている。また、「3つの故郷(綿の故郷、華僑の故郷、文化の故郷)」と言われおり、綿の産地として有名。 中国の「お茶の聖人」である陸羽など中国の歴史文化分野の有名人を多く輩出していることで有名。また、同市出身の華僑は7.8万人にのぼる。	・先進的な農業を行っており、お茶の文化研究に力を入れている自治体 ・観光プロジェクトの開発、協力、投資を行う意向がある自治体	農業研修等の交流、お茶の文化交流、観光交流
39	中国	中国	湖北省鐘祥市(しょうようし)	人口:1,032,568人 湖北省の中部、漢水中流に位置する。武漢市から200km、また、三峡ダムが所在する宜昌市から140km。武漢天河空港から市内までの所要時間は約3時間。気候は亜熱帯気候。リン鉱石の資源が豊富で「リンの都」と言われている。また、中国唯一の「高収益農業実験都市」でもある。 歴史文化都市であり、世界文化遺産「明陵」を有する。「全国科学技術先進都市」、「全国文化先進都市」、「全国スポーツ先進都市」という称号を国から授与されている。	北海道以外の自治体で、交流に熱意があり、共通点を持っている自治体	農業、工業分野での交流 研修生派遣事業等の人的交流

No.	地域	国	市町村	概況	提携希望先	希望交流内容
40	中国	中国	広東省肇慶市(ちようけいし)	人口:381万人 / 面積:15,056 km <sup>2</sup> 省の中部、珠江デルタ経済圏に位置する。広州白雲空港までは1時間半。国道・鉄道・西江水路等により中国西南地域と広東・香港・マカオの交通の要衝になっている。金、松脂、シナモンの生産地として有名である。また、ハイテク産業開発区を管轄している。 歴史文化の街であり、市内には「七星岩」という5つの湖、6つの丘、7つの岩山、8つの洞窟から成る有名な景勝地がある	当市と類似しており、相互交流、相互補完という役割が果たせる自治体	経済、科学技術、文化、観光等の分野
41	中国	中国	広西チワン族自治区梧州(ごしゅうし)	人口:300万人 / 面積:12,588 km <sup>2</sup> 自治区東部の西江中流に位置する。広西における最も歴史の古い街であり、また「山紫水明」の街でもある。広州まで270km、広州白雲空港までは4時間。 水路運輸が発達しているため貿易が盛んで、130の余りの国・地域と経済貿易関係を結んでいるほか、10社余りの企業が日本との経済協力プロジェクトを行っている。松脂の生産地として有名であるほか、花崗岩の産地としても有名。北宋朝初期に建設された「龍母太廟」や「孫文記念堂」等の文化遺跡もある。1470年には広東・広西の「総督府」、「総鎮」及び「総兵府」が置かれていた。なお、鑑真和尚が当市を経由して海南島に着き、日本に渡っている。	当市と類似した自治体で、経済貿易及び工業、特に軽工業が発達した自治体	行政の意見交換のほかに経済・科学技術・農業・文化・スポーツなど幅広い交流、国際交流員・研修員の派遣交流
42			広西チワン族自治区南寧市(なんねいし)	人口:2,945,600人 / 面積:22,112 km <sup>2</sup> 自治区の西南部に位置し、「花が一年中咲き、樹が常緑であり、果物が一年中熟する」という中国の「緑街」と言われている。歴史的に中国南部国境の重要な街である。南寧国際空港までは約30km。サトウキビ、果物、野菜、カリン、キャッサバ、米が主な農産物。また製薬、電子情報、機械電子等を中心とする新興産業団地になっている。 広西の教育の中心であり、自治区の80%の大学が南寧市に集中している。また、毎年「南寧国際民謡祭」及び大型経済貿易商談会を開催し、世界各国の有名な芸術家を招聘し多彩なイベントを行うとともに、国内外の有名な企業を招聘し商談を行っている。	農業、工業、観光及びハイテク産業等の1つの分野又は多分野で先進的である自治体。交通が便利な自治体。	文化芸術、スポーツ等の分野での交流協力 企業間での情報交流、経済貿易協力
43			広西チワン族自治区玉林市(ぎょくりんし)	人口:5,406,000人 / 面積:12,839 km <sup>2</sup> 広西壮族自治区の南東部に位置し、市の東には香港やマカオ、南には海南島がある。現在、空港を建設中。華僑の人口が市の人口の3分の1を占めており、華僑が多い都市として有名。市内には各種の市場があり、商業の盛んな都市。 亜熱帯気候のためライチ、ロンガン、バナナなどが生産されている。 科学教育を重視しており、小中学校が1,761校、高等学校が4校、商業専門学校が93校、技術専門学校が7校ある。市内には名所旧跡が点在し、また、景色が美しく、「天然南国園林」と呼ばれている。	特に問わない	貿易、科学技術、観光、文化の分野での交流 また、自治体内の企業との交流
44			広西チワン族自治区百色市(ひやくしよくし)	人口:3,788,000人 / 面積:36,252 km <sup>2</sup> 自治区西部に位置。「特産の倉庫」、「天然漢方薬の倉庫」、「亜熱帯果物の拠点」といわれているほど森林、水、鉱物、動植物及び観光資源が豊富で、観光名所は167箇所にあふ。交通至便な地でもあり、東南アジア諸国との貿易も盛んに行われている。現在は、対外開放、プロジェクト開発、工業立市に力を入るとともに、アルミ、電力、紙製造、石化、農林生産品加工、石炭、マンガン、製糖、建材、製薬という十大工業産業にも力を入れている。 歴史は古く、80万年前の旧石器時代から人類がこの地で生活していた。民族はチワン族が87%を占め、他にヤオ族、ミャオ族、イ族、コーラオ族、回族からなり、それぞれが悠久かつ多彩な民族文化を創り上げている。	特に問わない	産業・経済交流など
45			広西チワン族自治区欽州市(きんしゅうし)	人口:344万人 / 面積:10,728 km <sup>2</sup> 自治区の南部沿岸地域に位置し、南寧、北海空港から100kmの距離にある。年平均気温は21～22℃で、年平均降水量は1,649～2,056mm。 漢民族やチワン族を始め20以上の少数民族が居住し、固有の民族風情が色濃く残る。その他、様々な科学研究機関や文化芸術関係施設を有している。漁業や農業が盛んで、全国有数の良質な港湾を持つ。また、観光地として名所・旧跡も多く、第3次産業も大きく発展している。近年は臨海工業都市の建設を目標にインフラ整備を進めるとともに、緑化や美化に努めるなど、快適な居住空間としての現代都市づくりを進めている。	特に問わない	経済交流等
46			海南省海口市(かいこうし)	人口:1,626,400人 / 面積:2,304 km <sup>2</sup> 中国で2番目に大きな島である海南島の北端に位置し、瓊州(海南島の旧府名)海峡南岸にある。香港、マカオ、東南アジア諸国と隣接し、大陸と東南アジアを繋ぐ交通の要衝と言われている。熱帯季節風気候に恵まれ、年平均気温は23.8度、日照時間が長く、降雨量も多い。 中国で一番大きな経済特区である海南省の省都で、全省の政治、経済、文化、科学技術の中心である。都市のインフラ整備も進んでおり、中でも電気通信の発展は著しく、固定電話、携帯電話、公衆電話、無線呼び出し及びインターネットの普及率は全国一である。さらに、交通の便も良く、海口美蘭国際空港は国内外の55都市と通航しており、年間利用者数は560万人を超えている。 海口市の対外交流は盛んで、友好都市との交流も積極的に進められている。フランスのサンナゼール、オーストラリアのダーウィン、イギリスのパース、アメリカのオクラホマシティ、タンザニアのザンジバルと友好都市提携を結んでおり、経済貿易、科学技術、文化等の分野において広く交流と協力を進めている。	市レベルの自治体	経済交流、教育交流、文化交流等
47			四川省眉山市(びざんし)	人口:3,462,200人 / 面積:7,186 km <sup>2</sup> 成都平原の西南部に位置し北は成都市、南は樂山市、東は資陽市、西は雅安市と接する。1つの区と5つの県を管轄している。四川省の省都である成都及び双流国際空港までは高速道路利用で30分。搾油用作物、肉類、果物等の生産地。また、機械電子、医薬化工、食品飼料、水利発電資源、観光の5つの基幹産業が形成されつつある。	同規模の自治体で、当市との友好交流を希望している自治体	科学技術、文化、経済、人的交流

No.	地域	国	市町村	概況	提携希望先	希望交流内容
48			四川省瀘州市合江県(ろしゅうし こうこうけん)	人口:840,000人 / 面積:2,422 km <sup>2</sup> 省の南部(重慶市の南西部)、長江と赤水の合流点に位置する。化学工業、食品、建築材料、造船、エネルギー、製紙業が支柱産業となっており、豚、黒山羊、オリーブ、漢方薬等の産出地として有名である。また、原生林等が多く絶滅に瀕した動植物が生息している。また漢時代の肖像画と石棺が全国で最も多く残っており、国から「全国文化県」「文化発達県」という称号を授与され、数多くの文化人を輩出している。	中国の歴史と国情に関してある程度理解があり、工業が発展し、良好な人文環境を有する都市	経済、文化等の分野
49			貴州省(きしゅうしょう)	人口:3,475万人 / 面積:17.62万km <sup>2</sup> 中国南西部に位置し、山紫水明で快適な気候に恵まれている省内には水力発電資源や鉱物資源が豊富に存在し、中国南部の重要なエネルギー基地であるとともに、中国4大漢方薬材料産地の一つでもある。主な産業は白酒、緑茶、タバコ、鉱産物、生物資源開発、観光、発電等。少数民族が集中的に居住し優れた民族文化を有しており、貴州省の民族と人文生態の保護、伝承は、世界でも稀にみるものである。省内には47の大学があり10万人余りの学生がいる。	特に問わない	経済貿易、観光、農業、環境保全、教育、衛生及び文化等の分野
50			貴州省黔东南州(けいと うなんしゅう)	人口:約442万人 / 面積:30,337 km <sup>2</sup> 貴州省の東南部。州全土の62.78%が森林で覆われ、「森林の州」と称されている。気候は亜熱帯湿潤気候で、年平均気温は16℃、年平均降雨量は1,200mm。少数民族が集中的に居住し、独自の優れた民族文化を有しており、さらに自然環境が相まって観光面の地域間競争で優位に立っている。「百祭りの州」や「歌舞の州」とも呼ばれるほどに多種多様な祭りが1年を通して行われている。産業においては、第一次産業から第三次産業中心の産業構成への転換を果たしている。	特に問わない	観光や民族文化、経済での交流協力
51			雲南省	人口:44,830,000人 / 面積:394,100 km <sup>2</sup> ミャンマー、ラオス及びベトナムと接しており、古くから中国・東南アジア間の重要な通路となっている。省都昆明の国際空港から市内までは車で20分。少数民族人口が3分の1を占める。主産業はタバコ産業、鉱産物産業、生物資源開発、観光業及び水力発電をはじめとするエネルギー産業。また、国家レベル、省レベルのハイテク技術産業開発区がある。多民族の省のため各民族の様々な文化・芸術がある。漢族の文化と密接な繋がりがあり、また東南アジア諸国・インドの文化の影響を受けている。省内には24の大学があり10万人余りの学生がいる。また、21の国家レベルの企業技術センターがある。	中国に対して友好的であり、相互協力ができる自治体	経済貿易、観光、農業、環境保全、教育、衛生及び文化等の分野
52			チベット自治区ラ薩市(らさし)	人口:474,500人 / 面積:3万km <sup>2</sup> チベット自治区の区都として1960年に設置された。標高3,650mに位置する。年平均気温は8℃で、夏は暑くもなく冬は厳しい寒さもない、空気の清潔な都市である。ラサクンガ空港から約2時間。主な産業は民族手工業・観光業・医薬業である。	類似した地理的環境を有し、経済、教育、文化の分野で補完性を持つ自治体	民族文化、経済貿易、人材交流
53			新疆ウイグル自治区	人口:19,343,400人 / 面積:166万 km <sup>2</sup> 歴史上、西方と東方を結んでいた「シルクロード」の要衝である。北京から飛行機で区都ウルムチの国際空港までは3時間20分、空港から市内までは車で30分の距離。高い山に囲まれた盆地になっており、山脈からの雪溶け水で多くの川が形成され周辺にオアシスが分布。また工業、農業、自然及び観光の資源が豊富である。文化施設等の各種公共施設があり、科学技術、教育、文化、衛生、スポーツ、放送等の各分野においても充実している。	・友好交流に熱心な都市 ・提携にこだわらず長期間安定した交流関係を築くことができる都市	文化、教育、スポーツ等の分野における市民参加型の友好交流 特に青少年間交流
54	韓国	韓国	ソウル特別市蘆原(ノウオン)区	人口:604,960人 東は京畿道に接する蘆原区は、ソウル特別市の北東の入口となっており、水落山(スラクサン)、沸岩山(ブルムサン)や、中浪(チュンラン)川など自然豊かな都市である。ITを利用した高水準の教育区域として、また、ソウル市北東の経済中心地とした街づくりを進めている。26の高校と7つの大学がある。	東京都23区又は東京都近隣の市と交流希望	行政分野、経済分野、文化分野
55	韓国	韓国	ソウル特別市江南(カンナム)区	人口:570,000人 面積約40km <sup>2</sup> で、市内北側に位置している。計画的に開発された地域で広い道路網が発達している。区の全域が住宅地域である。また一部の地域は産業地域として発達している。関税庁、韓国電力公社、韓国総合展示場等が所在。また、史跡・文化財等が数多くある。	都市圏の自治体	行政交流、青少年交流、文化交流等
56	韓国	韓国	釜山広域市北区	人口:312,000人 釜山広域市の北西部に位置しており、北は慶尚南道山市、東は金井区・東萊区、南は釜山鎮区・沙上区、西は洛東江を境界に江西区と慶尚南道・金海市に接している。	釜山と姉妹都市、友好協力都市の関係にある大阪府内市区町村、福岡県内市区町村または下関市との相互交流を希望。地域は特定しない。	行政分野、経済分野、文化分野
57			蔚山広域市北区	人口:182,365人 蔚山広域市北部に位置し、自動車産業が発達、海洋観光都市としても発達を遂げている。特に自然景観を誇る江東海岸を2009年までに1,500億ウォンを投資し、コンドミニアム、ペンション、コンベンションセンター、温泉と室内外ウォーターパーク、ゴルフ場など、総合観光リゾートを建設し、蔚山港と日本の小倉港間の直行路再開発を計画するなど、先進海洋観光都市としての発展を積極的に推進している。	産業生産施設と海洋観光都市が複合している都市	人的交流、文化、観光、教育、体育分野



No.	地域	国	市町村	概況	提携希望先	希望交流内容
58			京畿道南揚州市	人口:63,000人 / 面積:843km <sup>2</sup> 加平郡はソウルから1時間以内でアクセス可能な首都圏最高の観光地。84%が山林で、首都圏市民の憩いの場となっている。南怡島入口、チャラ島、アチムゴヨ樹木園、プチフランス等、有名な観光名所がある。 加平郡はチャラ島国際ジャズフェスティバルや冬季まつりで有名。	都市部の自治体	教育、文化、観光交流、人的・物的交流 特に青少年(高校生)語学研修が可能な教育都市や、祭り等の文化・観光交流が可能な地域を希望
59			京畿道南揚州市	人口:61万人 面積:458.1km <sup>2</sup> ・南楊州市は、地方とソウルを結ぶ北東部の交通の関門の役割を果たしており、首都ソウルへの接近性に優れ、都市開発において豊かな潜在力を持つ首都圏都市である。 ・都市と農村が共生する快適な田園都市であり、恵まれた自然環境と生活条件が整っていることから年々人口が増え続けている。 ・「快適な都市、南楊州」を目指し、便利な交通環境、楽しい教育文化、公正で透明な行政の確立に努力している。	・東京、大阪、横浜などの大都市に隣接して交通(航空便など)が便利な都市。	・南楊州市のスローフード(スローシティ、有機農業など)に関する共同学術セミナー、共通分野の研究、及び関連産業の誘致などによる相互発展が可能な都市。 ・両都市間の青少年交流(語学研修、ホームステイなど)が可能であり、地域の大学で長・短期語学研修ができる都市。 ・公務員の相互派遣勤務及び行政研修ができる都市。また競争力を持つ各分野において相互補完・発展が可能で、ベンチマーキング及び相生(win-win)ができる都市。 ・両都市間の人的・政策交流をはじめ民間交流の活性化のため、様々なネットワークが形成できる都市。 ・南楊州市と同程度の面積・人口であり、地域環境(首都圏又はその隣接都市)が似ている都市。
60			忠清北道陰城郡(ウンソングン)	高麗人参の産地として化粧品産業などが盛ん。国連事務総長の故郷。		
61			全羅南道莞島郡(ワンドグン)	来年海藻博覧会を開催。	海藻が採れる、海近辺。(東北三陸地方)水の綺麗な海のある自治体。	海藻博覧会に参加いただける自治体を探しています。
62			慶尚北道星州郡(ソングン)	韓国最大のマクワウリ(メロン系果実の一種)産地。	マクワウリ関係の地を希望。	文化交流(お祭りへの相互参加など)。青少年交流(ホームステイ)。経済交流。
63			慶尚北道奉化郡(ボンファグン)	今後、花卉産業に尽力。	日本における花卉産業地域を希望。	花卉産業の情報交換や、相互の市場開拓支援など。
64			慶尚南道河東郡(ハドングン)	干し柿等農作物のブランドで有名。	農業の盛んな自治体を希望。	農業関係の情報交換や、相互の市場開拓支援。
65	東南アジア	フィリピン	パンガシナン州 バニ町	人口:45,758人(2010年推計) 面積:176.07km <sup>2</sup> バニ町はルソン島中西部に位置し、多くの河川に囲まれた肥沃な平野地です。主要産業は農業(米、スイカ、マンゴー)、水産業(ミルクフィッシュ養殖)等で、人口の9割以上がキリスト教徒です。 2013年5月のフィリピン共和国中間選挙において、マニラ日系人会の役員の奥様(コテラ・グエン・ヤマモト氏)が当選し、町長となりました。日系人関連の方としてはフィリピン初となります。 これを機に、是非とも日本の自治体との姉妹(友好)都市提携を希望したいと思います。	以下希望に添える自治体、地域	文化・技術・観光分野の交流
66			ヌエバ・エシハ州	人口:1,853,853人 ヌエバ・エシハ州はルソン島内にあり、広大な中央ルソン平原の東端に位置している。 州内の48%が農業用地となっており、他は森林が25%、放牧地域が11%、湿地・湖沼が1%、居住商業地域が5%、その他地域が10%となっています。 ヌエバ・エシハ州の主要産業は農業で、主な農産物は米、玉ねぎ、マンゴー、カラマンシー(柑橘類)、バナナ、ニンニクである。中でも、州内のボンガボン町は、東南アジア域内の主要な玉ねぎ産地となっており、「玉ねぎの首都」と呼ばれている。 農産物以外にも酪農業の分野でも特徴があり、他のどの地域よりも牛や水牛から搾るミルクが多いことから、2008年6月に「フィリピンのミルクの首都」と形容されている。 製造業の分野では、サイドカーと呼ばれる三輪車が州内で広く製造されており、特にサンタローザでの製造が盛んで、価格は国で最も安い7,000ペソ程度で製造されている。 この他、天然資源が埋蔵されている地域もあり、州内のジェネラルティニオ町、カラングラン町、パンタバンガン町では銅やマンガンが見つかっている。カラングラン町とパラヤン市の奥地には金脈が埋蔵されているとも言われている。 観光資源として、1974年にフィリピン人のエンジニアによって造成されたパンタバンガンダムがある。ダムからは山に囲まれた美しい景色を楽しむことができ、今日では、州で最も多くの観光客が訪れる観光スポットのひとつとなっている。当地を訪れる観光客の多くが、ダムの規模の大きさに感動している。	農業技術交流分野に関心があり、積極的に活動を行っている自治体	上記参照

No.	地域	国	市町村	概況	提携希望先	希望交流内容
67			ラナオ・デル・ノルテ県	人口:473,062人 ミンダナオ島北部に位置し、島の北西から南西の海岸線に沿ってある。傾斜地が多い。64%が農地、21%が森林で、あらゆる作物を育てるのに適している。主な農産物は、米、ココナッツ、バナナ、コーヒーなど。3つの湾では水産物も獲れる。原住民であるマラナオ族がラナオ湖の周囲に住んでいる。セラミックセンターでは、レンガやタイルを生産している。様々な民族から成り立っている。60.4%がセブ語を話し、35.8%がマラナオ語を話す。ほとんどの人がローマカトリック教徒かイスラム教徒である。MCCというスポーツ複合施設があり、そこでは大規模なスポーツ大会や文化的な催しが行われる。約95%の人がいずれかの言語を読み書き、理解ができる。幼稚園が66、小学校が314、中学校が44、高校が7校ある。		経済分野 1 陶芸技術 2 一村一品運動 3 産業振興策
68	その他アジア地域	インド	チェンナイ市	人口:約4,650,000人(2011年) ベンガル湾に面した南インドの中心都市の一つで、デリー、ムンバイ、コルカタと並びインド有数の都市として古くから栄えてきた。北インドとは異なる要素を持つドラヴィダ文化の中心地の一つであり、南インドの観光やビジネスの主要な拠点となっている。 (1)歴史 古くは、地中海や中近東、東南アジア、中国を結ぶ交易路の拠点で、本格的な都市としての発展をはじめのは、イギリス人が進出しはじめる17世紀になってから。1996年まではマドラスと呼ばれ、イギリス植民地政府にとってのインド南部統治の重要な拠点として発展した。1947年にインドが独立を果たすと、南インド最大の州マドラス州の州都となり、その後、再編されたタミル・ナド州の州都となり、1996年に現地語の呼び名であるチェンナイに都市名が変更。 (2)特徴 周辺に日産やBMW、現代自動車などの工場を抱えるインド最大級の自動車産業の中心地であり、「インドのデトロイト」とも呼ばれている他、近年製造業を中心に多くの日系企業が進出しており、2014年10月時点で577拠点となっている。古くからの国際的貿易港であるチェンナイ港やエンノール港といった良港を有し、東南アジア、日本、中国等へのゲートウェイとして、更なる経済発展が期待されている。また、南インド特有のドラヴィダ文化の影響を色濃く残しており、インドでも最古級の大学、マドラス大学をはじめ、多くの大学が集まる学術都市となっている。また、伝統舞踊パーラタナーティアムや古典音楽、映画の盛んな文化芸術の中心地でもある。日系企業の増加とともに日本人居住者の数は年を追って増加しており、2014年現在の在留邦人数は870人、インドの中でも外国人の居住が多い国際都市となっている。 (3)日本との関係 「ムトゥ踊るマハラジャ」や「ロボット」のヒットで日本でも知られているラジニ・カーントはタミル語映画の人気スター。唐棧(とうざん)とも呼ばれる、棧留(サントメ)綿の綿布は、元は当地周辺の地域で作られていたもので、サントメとは当市内の地名に基づいている。後に日本に伝わり、模したデザインのものが京都や川越、千葉館山、結城など各地で作られるようになる。奈良東大寺大仏建立の際、開眼導師をつとめたボディ・センナ(菩提僊那)や中国禅宗の開祖として知られるダルマ太子(菩提達磨)は現在のタミル・ナド州出身と言われている。	チェンナイ市との姉妹都市交流に関心のある自治体	姉妹都市交流
69		ネパール	トリバンナガル市	人口:約50,000人/面積74.54km <sup>2</sup> ネパール第2の都市ポカラの南西部に位置し、カトマンズから飛行機で約1時間、バスで約10時間。空港から市の中心部までは車で約25分。のどかで自然に恵まれた地域で、市民の大多数は農業を営んでいる。産業はレンガや麺等の小規模工業が発達。 教育機関として、ヒンドゥー教の聖職者を養成するサンスクリット大学とトリバン大学がある。  ネパール第2の都市ポカラの南西部に位置し、カトマンズから飛行機で約1時間、バスで約10時間。空港から市の中心部までは車で約25分。のどかで自然に恵まれた地域で、市民の大多数は農業を営んでいる。産業はレンガや麺等の小規模工業が発達。 教育機関として、ヒンドゥー教の聖職者を養成するサンスクリット大学とトリバン大学がある。		行政交流。市の発展のためのアドバイスを 得たい。
70			シッダールタナガル市	人口:75,517人/面積35.7km <sup>2</sup> ネパール第2の都市ポカラの南西部に位置し、市の南側はインドとの国境の街スナウリに接している。市の空の玄関口ゴータム・ブッダ空港へはカトマンズから毎日便が出ている。主産業は衣服、石鹸、プラスチック、スチール製部品等の製造業で、インドとの国境に近い商業も盛んである。 釈迦の生誕地で有名なルンビニは、アショカ時代の石柱、僧院の遺跡等があり、また考古学の発掘地としても有名。市内には小学校から大学までの教育機関がある。		文化、教育、経済、スポーツ分野での交流。
71	中近東	トルコ	メジトリ市	人口:164,429人(2014年調査)/面積:416.52km <sup>2</sup> メジトリ市は、トルコ南部の地中海地方に位置し、メルスィン県にある大都市である。豊かな文化と自然を持ち、農業と手工業が主要産業である。観光客は、エコツーリズム、サイクリング、トレッキング、山の幸、海の幸が楽しめる。かんきつ類を含む農作物の生産が特に盛んで、自動車工業、家具業界、建築業界も成長を見せている。 メジトリ市には、古代ギリシア時代に建築されたキリキアの港湾都市の遺跡が残っている。		文化、農業、観光、歴史

No.	地域	国	市町村	概況	提携希望先	希望交流内容
72			ゲムリック市	人口:105,750人(2011年調査)／面積:413.5km <sup>2</sup> ゲムリック市は、トルコ共和国イスタンブールから約211km、ブルサからは約30kmのマルマラ海沿岸に位置し、ブルサ県大ブルサ市に属している沿岸都市。大ブルサ市と日本の親交は深く、2007年には大ブルサ市ニルフェル市と、愛知県東海市の間で姉妹都市提携が結ばれた。 ゲムリック市は、イスタンブール、ブルサ、イズミットのような大都市の交差点に位置し、港、豊潤な農業地、拡大中の産業地、そして増加する雇用ポテンシャル等、経済発展中の町の一つである。 また、地震層における第一危険地帯に位置しているため、同じ地震問題を抱え、対策を図っている日本の都市との姉妹提携を希望している。 ゲムリック市経済の基盤は農業である。中でも重要なのは、オリーブの生産である。オリーブ油・オリーブ石鹸などの加工産業も盛んで、トルコで4番目に大きい産業施設もある。 また、観光業の面からいえば、マルマラ地方の重要なリゾート地の一つとして特色づけられ、夏期は通常の約2倍の人口(約20万人)となる。	地震災害対策を取っている市	地震に対する防災対策、建築及び都市計画分野に関する規制等
73			ポール市	人口:59,873 / 面積:1432.6 km <sup>2</sup> ポール市はトルコ中央アナトリア地方のニーデ県にあり、豊かな歴史・文化を持ち、教育に熱心な市である。古代カッパドキア地域の南に位置し、ヒッタイトやベルシャの遺跡、古代トルコの用水路、ローマ帝国時代の墓場など、紀元前5000年から16世紀までの時代の遺跡が多数所在している。多くの祭りが毎年ポール市の主催・後援により行われている。経済は観光業、貿易、農業、放牧・酪農・肉生産、砂糖・糖蜜生産、ピクルス・ピネガー生産、織りじゆうたん、大理石採掘、及び皮革製造業に支えられている。 ぶどう畑と果樹園(主にりんごとアプリコット)があって、ポール市のりんごはトルコと中東ではとても有名である。ポール市はアナトリア内陸の要所に位置し、その地域の貿易の中心となっている。 ニーデ大学付属のハリル・ゾレ・アタマン職業学校、ポール職業学校及びボルススポーツアカデミーもこの地区屈指の優れた教育機関である。	文化及び教育方針などを反映し合える都市と姉妹提携を希望する。	教育・文化・貿易
74			カスタモヌ市	人口:80,906 カスタモヌ市は、黒海地方に位置するカスタモヌ県の県都である。広い森林面積を有し、林業・木工業が主要産業である。農業及び鉱業も盛んである。 カスタモヌ市では、独特な建築様式で建てられた伝統的なトルコの家の素晴らしい例を見ることができる。市街から約15kmほどいったカサバ村には、セルジューク朝時代の1366年に建てられたマフムト・ベイモスクという重要なモスクがある。600年もの歴史がある建物がホテルとして使われている。12世紀に建てられたカスタモヌ城も素晴らしい所の一つである。カスタモヌ市には長い歴史と豊かな文化と壮大な自然の美しさがある。 市民は教育に非常に興味を持っている。		文化、観光、教育、産業(農業及び林業、商業)
75	ロシア他	モンゴル	ヒングウンドルソム(郡)	人口:約3,000人 ヒングウンドルソム(郡)は首都ウランバートル市から約300 km西に位置しており、面積は245,000m <sup>2</sup> 、ボルガン県で最大のソム(郡)で、その13%は森林地帯、残りは草原地帯となっている。 自然が豊かで、鹿、イノシシ、ウサギ、オオカミなどの野生動物や様々な魚介類が生息している。 人口は約3,000人で、うち約4割は郡中心で生活している。世帯数は約900で、人口比率は青年が38%、子供が30%となっている。 主産業は牧畜で、15万頭以上の家畜が飼育されており、馬乳酒の品質がモンゴル国内で有名な郡の一つである。羊毛を利用して、ウール、カンミア関係の企業を起こしたり、乳製品、特に、山羊のチーズ等を日本の技術で生産したい希望を持っている。 農業については、余剰農用地が約7,000Haあり、小麦、野菜等の栽培を共同で行ってくれる先を探している。 観光関係については、近辺は観光資源が豊富で、山と草原がある景観の素晴らしいところである。ヤクという家畜が沢山、放牧されており、その毛は稀少衣料品となるほか、そのミルクは濃厚で珍重されている。最大の観光資源は、オルホン川等、三つの川が合流する地点の景観であり、また、この合流地点は釣りの名所で、イトウ等の魚が釣れる。学校、病院、幼稚園や職業訓練専門学校、情報文化センターといった公的施設や銀行、企業、獣医療院等がある。毎年帝国記念や人民革命記念を祝したナーダム祭を郡等で開催している。2011年には、郡創設80周年記念を迎えるため、その準備作業に入っている。2009年度のナーダム祭では、オルホン県から弓矢の専門家たちを招いて、伝統的弓技を宣伝した。 毎年8月には、初代知事D.Sundui氏記念のモンゴル伝統のお弾き大会を開催している。 また、民俗音楽の振興を目的とした馬頭琴教習プログラムを行っており、県中心で行った発表コンサートは大好評であった。		人材・文化交流を通じて、相互理解とともに、日本の技術・資本と同ソムの資源を合わせた新しい相互発展の基礎をつくることを希望

No.	地域	国	市町村	概況	提携希望先	希望交流内容
76		ロシア	オムスク州オムスク市	<p>人口：116万7,000人(2013年1月1日現在)／面積：567km<sup>2</sup> 1716年建都、オムスク州の行政の中心地であり、ロシアの工業、文化の中心地のひとつである。あらゆる交通機関が集中する要所であり(鉄道、水路、道路、航路など)ヨーロッパとアジア大陸、北西シベリアと中央アジアが交わる地である。</p> <p><b>オムスクの工業</b> 工業生産は市の経済収支で主要な位置を占める。主な産業は、石油化工、電力産業、科学・石油工業、食品製造、機械製造。なかでもフェノール(石炭酸)、ベンゾール、耕耘機、耕作機械部品、合成ゴム、乳製品の缶詰、アイスクリームは、全ロシア生産高の大部分を占める。オムスクの生産品はロシア国内のみならず海外でも流通している。オムスク産の高品質な製品はロシアや海外の品評会でも認められている。</p> <p><b>オムスクと世界</b> オムスクと対外貿易の取引がある国は世界70か国以上：カザフスタン、キルギス、ウクライナ、中国、ハンガリー、アメリカ合衆国、ポーランド、カナダ、スロバキア、ドイツなど。オムスク市のパートナー都市及び姉妹都市提携をしている国々は、ブホフ(スロバキア共和国)、ペトロパブロフスク、バウロダール(カザフスタン共和国)、シンフェローポリ(ウクライナ)、晋州(大韓民国)、カルロヴィヴァリ(チェコ共和国)、開封、福州(中華人民共和国)、グダニスク、リュブリン、ウッチ(ポーランド共和国)、ゴメリ、ミンスク(ベラルーシ共和国)、ロシア国内では、カリニングラード、ノボシビルスク、チェリャビンスク、ウランウデ、ベンザ、ゴルノアルタイスク、ブリャンスク、アンガルスク、クラスノヤルスク、プラーツク。これらの繋がりを生かし、ビジネス、科学、文化の分野で交流を行っている。 市内にはカザフスタン共和国領事館が開設され、スロバキア共和国名誉領事が務めている。</p> <p><b>オムスクと生活文化</b> オムスクはシベリアの文化の中心地である。オムスクアカデミードラマ劇場はオムスクー歴史のある劇場で、ロシア国内でも歴史ある劇場として知られている。オムスク国立人形・俳優・仮面劇場「アルレキン」も歴史ある子ども劇場としてロシア全土で知られている。オムスクには、パイプオルガンと室内音楽のホール、オムスク州立フィルハーモニーコンサートホールがある。国立オムスクロシア民族合唱団は世界的に有名であり、ロシア民族文化普及活動を率先して行っている。毎年オムスクでは500以上の大規模な文化関連のイベント(お祭り、フェスティバル、展示会、コンサートなど)が行われている。 オムスクでは、児童、未成年、青年の教育システム(学齢前、義務、補足、専門)を確立しており、そのシステムにより高い技能を持つ人材が確保されている。 オムスクの高等及び中等学習施設の数はシベリアの都市のなかでも屈指である。市内には、科学研究機関が40施設あり、ロシア科学アカデミーのシベリア支部であるオムスク科学センターもそのひとつである。 スポーツも大変盛んで、市内には7つのスタジアム、470の体育館、56のプールを含む1988のスポーツ関連の施設がある。毎年大規模なスポーツイベント、シベリア国際マラソン、全ロシアマラソンの日「クロス・ナツィー」、市民大競技会「スポーツ都市 白オムスク」等々を開催している。オムスクのスポーツ選手たちはオリンピックやパラリンピック、世界や</p>	<p>経済及び演劇文化交流に積極的な自治体との提携を希望</p>	<p>1)ビジネス分野における商業経済ミッションの相互交流 2)芸術集団や劇団の相互文化交流 3)教育関連の交流(マスタークラス、教員・学生・生徒の研修) 4)学生あるいはトレーニングチーム同士のスポーツ交流、試合</p>
77			チュヴァシ共和国	<p>人口：129万220人 チュヴァシ共和国は、ロシア連邦のヨーロッパ部中央(モスクワから東に約630キロ)に位置する連邦構成主体(*)で、共和国内に21の行政地区、9の市、8の村及び約1700の村落があります。チュヴァシ共和国は特有の自然環境にあります。住民の水源であるボルガ川、スラ川、ツイヴィリ川が共和国内を流れ、また750もの湖が真珠のように散らばっています。気候は大陸系気候に属し、土壌はポドゾール性です。天然資源としては、ピート、砂利、粘土、石灰、ドロマイト、炭酸質岩及び頁岩などが存在します。 チュヴァシ人はロシアでも人口の多い民族です。チュヴァシ人の祖先は、北カフカスに5~8世紀の間、住んでいたとされる古代ブルガル人やスヴァール人と言われております。その後、イスラム教を受容しなかったブルガル人によってチュヴァシ人としての民族性が高められ、1551年にロシアの一部となりました。ロシア革命後、チュヴァシ自治州、チュヴァシ社会主義共和国と名称の変更がありましたが、ソ連崩壊後、1992年にチュヴァシ共和国となりました。</p> <p>(*)チュヴァシ共和国はロシア連邦の連邦構成主体であり、日本で言うところの都道府県に相当します。</p>	<p>産業構造が似ていて、歴史のある自治体を望むが、特に限定はせずに関心をもっていた自治体との提携を希望</p>	<p>貿易経済及び文化的、教育的な面における交流を希望</p>
78			ロストフ州ドネツク市	<p>人口：50,098人 ロシア連邦南部に位置するロストフ州の中で北西に位置する都市で、北ドネツ川(ドン川の支流)とその支流である大カメンカ川の右岸に位置する、川と湖、森に囲まれた自然豊かな地。 1681年、ドン・コサックにより、北ドネツ川の左岸にグンドロフカ・コサック大村として創立。1945年からは労働者町となり、1951年からは、グンドロフカ市となった。1955年に、北ドネツ川を擁することから、ドネツク市と改名。 1966年までは、ドネツク市は鉱山の町と考えられていたが、将来的に炭田が枯渇するであろうことを考慮し、軽工業産業にシフトし、1966年から1973年の間に、ドネツク市は鉱山の町から機械産業と紡績産業の町へと変貌を遂げた。 2011年12月20日、ロシア連邦地方発展省の省庁間会議において、ドネツク市は企業城下町に含められることとなった。 また、ドネツク市は、気候的地理的に経済発展に向いているだけでなく、スポーツ施設、美術館、リフレッシュ施設など、観光・休息都市としての一面もあり、53ヘクタールの公園、759ヘクタールの緑化道路網、1,151ヘクタールの森林公園を擁する自然にあふれた、天恵豊かな地である。</p>		<p>文化的、教育的、社会的、経済的な面における交流を希望</p>

No.	地域	国	市町村	概況	提携希望先	希望交流内容
79			アムール州ブラゴヴェシチェンスク市	人口:224,000人 アムール州の州都で行政、産業、商業、科学、文化の中心。アムール州の総面積は日本とほぼ同じで、人口は約100万人。ロシア国境沿いのアムール川のほとりに位置し、対岸には中国黒龍江省の黒龍市がある。ユニークな地理的位置、インフラの発達により、アジア・太平洋諸国との貿易関係の発展に好都合な条件を確保している。主要農産物は大豆であり、全ロシアの作付面積の約半分を占め、その品質は世界的にも優れている。ロシア最大の大豆研究所では、大豆の多くの研究が行われている。また、林業分野では日本と活発に貿易が行われている。市民は、日本を含めてアジア・太平洋諸国の文化や芸能に対して市民は大きな関心を持っており、アムール州の文化の中心である。数年前から同市内に露日センターがあり、活発に活動している。同市ではセンターの協力を得て、毎年、「日本文化の日」及び日本映画「桜の枝」フェスティバルが実施されている。		
80			オレンブルグ州	人口:2,163,000人 ウラル山脈の南端、バシコルトスタン共和国の南側に位置し、南はカザフスタン共和国のカザフステップに接している。冬季は寒冷で少雪、夏季は暑い大陸性気候。元来はウラル・コサックの地で、ロシアと中央アジアを結ぶ交易の拠点であった。州都はオレンブルグ市(モスクワ南東約1,500km、人口約56万人)で、ほかにオムスク市、ノヴォロイツク市、プズルク市などの都市がある。地下資源に恵まれており、石油、天然ガス、鉄鉱石、銅鉱石、ニッケル鉱などを産出。特に天然ガス・石油の産出地として有名。工業も発達しており、鉄鋼業、非鉄金属工業(ニッケル、銅、クロム化合物など)、機械工業、金属加工業、石油化学工業、食料品工業(食肉、小麦など)などが盛ん。農業分野では小麦、ライ麦、大麦などの作物、乳牛、食肉牛、豚などの畜産業などがある。		
81			トムスク州	人口:1,041,000人 西シベリア平原の南東部、オビ川の流域に位置し、オムスク州、ノヴォシビルスク州の北、ハンティ・マンシ自治管区、クラスノヤルスク地方の南に位置。タイガ地帯で面積の約6割を森林、約4割を湖沼が占める。ワシガンという世界一大きな沼がある。多種多様な動物、鳥類、魚類が生息する。冬季は乾燥し長く多雪で、夏季は温暖で短い大陸性気候。19世紀から金の採掘が盛んになるにつれて人口が増加し、シベリアの交通の拠点として発達。現在の人口は約100万人で、120の民族が住む。州都はトムスク市(モスクワ東方3,500km、トミ川右岸に位置、人口約48万人)で、ほかにセヴェルスク市、ストレジェヴォイ市、アシノ市、コルバシェヴォ市などの都市がある。産業は機械工業、金属加工業、木材産業、化学工業、食品工業など。この地域では鉄鋼、石油、天然ガスなどが産出され、石油保有高は20億トンで天然ガス保有高は1兆立方メートル。また、泥炭(PEAT)の埋蔵量が300億トンで、ロシアの埋蔵量の18%を占める。泥炭は環境に優しい炭化水素原料で、化学肥料の製造や植物の活性剤、畜産に使われる防腐剤の製造に利用される。農業では畜産、穀物、野菜、苧麻の栽培が盛ん。60か所以上の研究所があり、大気汚染、金属学、工業エレクトロニクス、テレコミュニケーション、石油化学、腫瘍学、心臓病学、産科学、薬理学などに関する研究を行っている。6つの国立大学、2つの高等専門学校、15の私立大学の支部がある。8万人の学生は200以上の学問分野を専攻しており、2万人の学生は専門学校で学んでいる。住民の5人に1人は学生である。		
82			リャザン州	人口:1,208,000人 モスクワ南東のオカ川流域に位置し、気候は大陸性気候。12世紀ごろからリャザン公国が存在していたが次第に衰退し、1521年にモスクワ公国に併合。州都はリャザン市(モスクワ南東約196km、人口約52万人)で、ほかにカシモフ市、サンゾヴォ市などの都市がある。モスクワより放射状に展開する鉄道路線がリャザン市を通過し州内を横断するなど、鉄道が発達している。主な産業は機械工業、石油精製工業、化学工業、建設資材工業、軽工業、食品工業などで、農業は大麦、小麦、ライ麦、野菜作物などを栽培し、乳牛、食肉牛、豚、羊の飼育、養鶏などの畜産業も盛ん。また、燃料産業の主要地で褐炭の炭田があり、発電等に利用されている。条件反射の研究で有名なイワン・パブロフはリャザンの出身。		
83			イジェフスク市/ウドムルトリパブリック	人口:652,000人 穏やかな大陸性気候でモスクワまでは1,129kmの位置。ウドムルトリパブリックの州都。防衛型武器生産が盛んで、ほかにベアリングや自動車、宇宙開発から家庭用機器まで生産している。チャイコフスキーの生誕地に近く、劇場やコンサートホールも複数あり、文化水準も高い。大学等の教育機関も多く、高い教育水準を誇る。スポーツ施設も充実。		教育、行政、文化、経済、スポーツ
84			沿海地方 ポリシヨイカームニ市	人口:41,530人 ウラジオストクとナホトカの間に位置し、良好なインフラ条件と十分な土地及び水域を有していることから順調な発展が見込まれる。造船業、魚加工業が発展し、民間企業やマイクロビジネスも成長中である。多くの若者が産業分野等の専門家を育成している学校と極東国立技術大学の技術専門学校で学んでいる。また、市内には7つの大きな図書館や博物館展示場などがある。		スポーツ、文化、青少年交流。

No.	地域	国	市町村	概況	提携希望先	希望交流内容
85			マガダン州マガダン市	人口:120,400人 マガダン州の中心都市。オホーツク海沿岸に位置し、天然資源開発事業とともに発展。また、沿岸部のため港湾が発達。市内から50kmの距離にマガダン国際空港があり国内線(モスクワ・ハバロフスク・ウラジオストクほか3都市)、国際線(アンカレッジ)が就航。 米国と日本の教育機関が創立者に名を連ねる北方国際大学があり、また北方フォーラム諸国の大学・カレッジ協会の本部がある。文化施設は劇場が2つ、文化会館、博物館が所在。		
86	アフリカ	エチオピア	アムハラ デブラマルコス市	人口:107,684 エチオピアの北西部に位置し、首都アディス・アベバからは299km、アムハラ州の州都バハルダールからは265kmと、2大都市のほぼ中間に位置している。市の中心部を貫く主要道路は、国際的にも重要な役割を有しており、北はスーダン国境からエジプトへ、南は南アフリカ共和国へと続いている。海拔2,420m程度の高地に位置し、年平均気温は16.5度、年平均降水量は130mmで、6月中旬から9月までと、2月から3月頃が雨期にあたる。 市では、交通、通信、教育、医療、社会福祉などの行政活動や通商貿易業、ホテル業、飲食業、農業など多様な産業活動が行われている。最近では、市のいたる所でビル建設ラッシュが起こり、ショッピングモールも増えている。農業は主に市の郊外で行なわれ、穀類、豆類、小麦、果物、野菜などの作物を生産している。また、肉牛、乳牛、鶏、羊、やぎの飼育も行われている。 デブラマルコス市には教会や修道院など観光客等呼び込める魅力的な施設が多数存在している。 また、教育面ではアムハラ州政府等と共同で地域の教育拡充を促進するよう尽力している。市には、総合大学、カレッジ(総合大学の学部)、教員養成大学、職業訓練学校、小中高等学校、幼稚園等があり、これらすべてが政府所管である。また、教育分野においては、民間もその普及に携わっており、職業訓練大学、保健大学、幼稚園等の設置が、その例である。		文化交流のほか、廃棄物処理や道路、送電施設のインフラ整備に関する技術協力を希望
87			ディレ・ダワ	人口:330,000 アディスアベバに次ぐエチオピア第二の街。エチオピア・ジブチ間の鉄道の間地点のターミナル駅として、1902年に作られた都市で、東部エチオピアの産業、貿易、輸送の中心。古くからの市場、洞窟、旧鉄道駅といった様々な観光地がある。	小規模な産業の中心地、交通・サービスの中心地、貿易の中心地	経済発展や文化理解の促進につながるもの
88			アムハラ州ゴンダール市	人口:190,000 首都アディスアベバから748km離れた国の北部に位置する。現在は北部ゴンダール地方の行政首都で、アムハラ州最大の都市である。海拔2,200mの高地にあり、平均気温は19度、6月中旬から9月が雨季にあたる。ラス・ダシヤン山はエチオピアで一番高い山であり、アフリカでも4番目に高い山である。経済の中心は農業であり、特に綿、香辛料、トウモロコシに適した土地柄である。 交通では、エチオピア～スーダン間の国際道路の再建設が完了したため、いくつかの民間銀行や企業が都市にできた。また、国際空港も改善され、将来に渡り、旅行者が多くなる可能性を秘めている。またゴンダールはアムハラ州の4大工業都市の一つである。 ゴンダールは世界遺産の都市である。エチオピア国内にはユネスコに登録されている7つの世界遺産があるが、そのうちの2つはゴンダールとその側にある。ゴンダールは17世紀に成立した歴史ある都市である。壮大な歴史的建築物や文化の名残は過去の繁栄の証拠であり、人々はそれを誇りに思っている。 教育は、大学・高校等増えているが、教育に対する若い世代の要求の増加には対応しきれていない。		
89			アムハラ州バハルダール市	人口:160,000 首都アディスアベバから565km、飛行機なら55分の場所に位置するアムハラ州の州都である。バハルダールは、青ナイルの水源地であるタナ湖のほとりに位置する。海拔は1786m～1870mだが、大部分は平地である。年最高気温は平均26.3度、最低気温は10.3度である。乾季においては、日中は暑い、夕方には穏やかになり、夜は快適な環境になる。 バハルダールはエチオピアで急速に成長している都市の一つである。国際空港は観光地であるゴンダールやラリベラ、アクスムへの中継地としての役割も帯びており、都市化にも貢献している。タナ湖上の島々にある修道院や青ナイルの滝などの観光地も急速な都市化の原動力となっている。柑橘類、マンゴー、アボカド、パパイヤ、グアバといった果物も大量に生産している。 教育面では、近年、私立の幼稚園や学校も増加している。また、健康面では、マリアが深刻な問題であったが、最近では制御できるようになってきている。		
90			SNNP アワサ市	人口:118,311 首都アディスアベバから南に275km、市の西にはアワサ湖がある。1960年設立。海拔1,800m、平均気温は20度。土地は赤みがかった火山灰が主。大多数の人が小規模の貿易に従事する。 美しい花々と鳥たちが集うアワサ湖は観光客が集まるとも魅力的な場所。総合大学が1、単科大学が7、小学校が17、中学校が5ある。		
91			オロミア州ジツマ市	人口:139,000 エチオピアの首都アディス・アベバより約335km南西にある総面積46.23km <sup>2</sup> の都市である。東アフリカの貿易、観光、教育及び研究の中心を目指すことを市のビジョンに掲げている。主な産業は、商業と製造業(製粉業、木材業等)。市内の海拔は1,720～2,010mで、温泉、滝、山々、野生動物などの観光ポイントがある。国内外の観光客に提供できるホテルが市内に幾つもある。 昔の官邸や博物館などの歴史的な施設がある。教育施設は、幼稚園13、小学校9、中学校4の他専門学校、大学がある。しかし、建物の老朽化、教室不足など課題も多く、学校建設等の投資の可能性はある。		あらゆる分野での交流を希望

No.	地域	国	市町村	概況	提携希望先	希望交流内容
92			ハラリ州ハラール	人口:183,344(2007年) ハラールは、エチオピア東部にある古い城郭都市で、現在はハラリ州の州都である。 16世紀につくられた、「ジュゴル」と呼ばれる5つの門を持つ城壁は、ハラールのシンボルとなっている。また、城内には82のモスクが存在し、「イスラムにおける第4の聖地」とされている。(歴史的な町並みはユネスコの世界遺産にも登録されている。) 世界的に有名な「アラビカ・コーヒー」の原産地でもあり、その輸出はエチオピア経済を支えている。 ハラールは農業のみならず、紅海とエチオピア内陸を行き来する隊商貿易で繁栄し、独自の貨幣を鑄造したり、教育の拠点となることにより、独自の都市文化を生み出してきた。 市内には、多くの大学等の教育機関があり、通信教育のカレッジもある。 また、ハラールでは独自の文化の継承に女性が大きな役割を果たしており、色鮮やかな民族衣装と町の有名な籠細工の技術を継承する役割も担っている。		文化、観光、教育、能力開発、環境保護・衛生、都市開発に関する行政情報
93			オロミア州アダマ市	人口:222,035(2007年) アダマ市はオロミア州の州都であり、アフリカ大地溝帯に沿って、緑の丘と豊かな農地の間に位置し、標高が海拔1600～1700メートル。雨の量が少なく、穏やかな気候に恵まれている。(平均年間気温21℃、平均年間雨量760ミリ) 市内には、少数の中製造業と多数の小企業がある。製造業の業種は多様で、トラクター組立工場、石けん工場、食用油工場、紡績・衣服工場などがある。小企業の主な業種は、食・木材・金属加工である。 産業化は遅れながらも、下記のことにより産業が発展できる大きな可能性を秘めている。 ・主な都市、特に首都アディスアベバに近く、アクセスが容易 ・余剰農産物の農地に近いこと ・ジブチ港へのアクセス(道路、鉄道) ・ボレ国際空港へのアクセス(生鮮食料品を調達するため) ・増加する都市人口で、潜在市場と割安労働力を持ち合わせている。 アダマ市には、国立のアダマ大学をはじめ、多くの教育機関がある。 市内には多くのホテルやレストランがあり、市の近くには、人気のスパリゾート地ソダレ(27キロ)や、アワシ川沿いのガラガジ(12キロ)やボク(2キロ)という温泉地もある。		産業振興、インフラ設備・発展、教育・研修、情報技術、その他
94	ガーナ共和国	GA東区	人口:244,226 ガーナの南部に位置し、首都GA(グレートアクラ)の北部を占めているGA東区はガーナの中で最も成長している自治体の一つである。自治体の地域経済の産業部門は、区及び近郊コミュニティ両方に産業施設を有している。着実に成長している畜産業のための食品加工及び飼料生産も有望である。 GA東区は、同化しつつある外国人を含めて、様々な文化や民族のつぼである。したがって、当地の文化は様々な民族の文化が混ざりあっている。住民は、家族愛、高齢者への敬意や伝統を尊敬する価値観を持っている。人々は親切で、どんな人とも優しい心を持って接している。 GA東区においては教育の環境は良好である。公立高校は2校、私立高校は13校、公立中学校は71校、公立小学校は68校がある。幼児教育センターもある。	提携は、誠実さ、透明性、開発の努力と利益の相互扶助に基づくと考えている。	教育、ゴミ処理、保健・文化的又は技術的イノベーションに関する交流を希望している。また、市の管理と地方行政についての交流も歓迎している。	
95	ジンバブエ共和国	ビクトリアフォールズ市	ビクトリアフォールズ市はジンバブエ西部に位置する人口約35,000人の小さな都市です。市には世界三大瀑布の一つとして知られるビクトリアの滝(世界遺産)があり、また滝の周辺は野生動物が多数生息する国立公園になっており、日本を含め世界中から観光客が訪れる一大観光地になっています。 2013年8月には国連世界観光機関(UNWTO)の総会が開催されることになっています。	日本の観光都市、世界遺産のある都市、文化的都市	文化的・経済的交流	
96	マダガスカル共和国	ディエゴ・スアレス市	人口:108,980(2011年)/面積:43,406km <sup>2</sup> ディエゴ・スアレス市はマダガスカル第3の港町であり、仏領であった19世紀末に軍港が設置されてから、港町としての機能を果たしてきた。「エメラルドの海」と呼ばれる美しい海が広がり、世界的に珍しい、石灰岩が浸食されてきたオレンジ色の「レッドツインギー」やマダガスカルにしか生息しない特殊なキツネザルや鳥類が見られる。近年では、この豊富な自然環境から、マダガスカルの有数の観光地として国内外、特にヨーロッパ各国からの来訪者が増加している。また現在、世界銀行の協力により、地域一帯のホテル業や飲食業の開発など、観光拠点として総合開発する計画が進んでいる。人口も1993年から2011年にかけて倍増している上、現在も引き続き増加傾向にあり、今後の発展への大きな可能性を秘めている。 また同市内には、平和と日本・マダガスカル両国間の親善を願う日本人有志により、第2次世界大戦中にディエゴ・スアレス沖合で亡くなった4兵士をたたえる慰霊碑が建立されている(同慰霊碑は最近修復され、周辺が緑地として整備された)。 主要産業は観光業の他、養殖業、船舶製造・修理業、食品加工業(主にマグロの缶詰、塩、砂糖、油)、農業(コーヒー、カカオ、緑・黒胡椒、カンユーナッツ)。	港町、観光業に力を入れているなどの共通項があれば望ましい。	日本とマダガスカル、またはディエゴ・スアレス市との地理的・歴史的な繋がりに因んだ交流が出来れば有意義。	
97	マラウイ共和国	ゾンバ市	人口:88,314人/面積:39km <sup>2</sup> ゾンバ市は中部アフリカ・マラウイ共和国の南部地域にあるゾンバ県の中心地である。商業中心地であるブランタイアの北約65km、首都リロングウェから東南約300kmに位置している。1975年まではマラウイの首都だった。 主な産業は農業・観光業・鉱業などとなる。 チェワ族やヤオ族などが住んでいる多民族都市であり、チェワ語が一般的に使用されている。 マラウイ大学の本部が所在し、大学都市とされている。	経済活動や人口が同規模の市または町	専門技術、経済、教育及び文化	